

令和6年度 第4回生坂村ゼロカーボン推進プロジェクト会議録

日 時：令和6年7月24日（水）13時30分

場 所：村民会館講堂

村長より

- ・村政懇談会及び脱炭素事業に関する村民説明会も昨日で8地区を終えた。脱炭素に関する説明会では、(株)いくさかてらすの概要やPPA事業について、10年間や17年間の契約内容を示してご説明した中で、村民の皆様にある程度ご理解を頂けていると感じている。
- ・今はさほど反対意見もなく、半分以上の方に契約をして頂けるシミュレーションお示ししながら、ご理解を頂くために説明会を開いている。まだ詳細に検討を加えなければいけない点も少し出てきているので、いくさかてらすの取締役会やこの会議で決めていきたいと考えている。
- ・その他、当村は急峻な山があり搬出が厳しい地形で、経費が大変かかることから、森林整備が大変難しい方向性にあり、前にも説明があった通り国や県の補助金事業を活用し実施するのがやっとではないかという状況である。どうにか森林整備も行っていかなければいけないこの脱炭素事業なので、皆様から知恵を出して頂き進めていきたい。
- ・その点については今日も説明があるので、村民説明会で頂いたご意見を提示させて頂き、皆様からも意見を聞いて今後の課題の解決や方向性を見出していきたい。

【協議事項】

○脱炭素事業に関する村民説明会での質問内容について

- ・小立野区、下生野区、下生坂区、上生坂区、日岐区、草尾区の脱炭素事業に関する村民説明会にて、検討のうえ改めて回答するとした意見・質問と、繰り返し出された意見・質問の確認を行った。

○『龍と子』7月号について

- ・龍と子7月号の内容として、省エネ機器や木質バイオマスストーブの購入補

助について、生坂村の補助を活用した場合の自己負担額と、国・県を一例として他の補助を活用した場合の自己負担額との比較内容、また蓄電池の特徴などの内容について説明。

- ・蓄電池の容量について質問があり、太陽光パネルを設置しない家庭の蓄電池の容量は、いくさかてらすの経営を考えて決めた。この蓄電池の容量は現在既に設置されている一般家庭の容量と同等であると説明した。
- ・ゼロカーボンを進めていくには購入者目線も必要と考える。一般家庭の判断基準として省エネによる電気料や CO2 排出量の差も示し方を考慮した方が良いのではないかという意見があり、現在の家電や省エネ家電の電気料や CO2 排出量が分かる文献などを調査し、また家電量販店でも確認できるので、今後そのような示し方も検討したいと説明した。
- ・停電時に蓄電池を使う際の電気の使用量も、電気料金に含まれることを示した方が良いのではないかという意見があり、次回の龍と子で対応していきたいと説明した。

○木質バイオマス燃料の置き場について

- ・やまなみ荘のバイオマスボイラー（チップ）に年間 120 トン、月に 10 トンを供給する為のチップ置き場の設置を計画している。搬入してチップ化をしていく材の置き場の構造等について説明を行った。
- ・葡萄の剪定木の取り扱いについて質問があり、対象になるように計画しているが、今後乾燥状態などを調査していくこと、またストックする場所についても検討する必要があると回答した。
- ・村長より、葡萄農家の意向も確認して進めていくことと、葡萄栽培は当村の主産業の 1 つであるので、循環型社会を実現していく為にも葡萄の剪定木を活用していくことは必要であり、しっかり検討して欲しいと依頼。

○各事業の進捗状況について

- ・森林調査の結果としては西側の山林には広葉樹が多いので、薪にしていけばどうかということと、東側の山林はバイオマスの材になるように調査をして

いるが、補助事業の動向を考えて調整していることを説明。

- ・実施に向けて具体的な計画は示せるか質問があり、現在は村道周辺の伐採を行うよう調整していると説明した。
- ・机上で話し合いをしても進まないなので、実現に向けての道筋を考えていかなければならないという意見があった。

【意見・質問】

- ・大日向の脱炭素に関する説明会で、龍と子の HP や SNS の更新が遅いという意見があり、より多くの村民の皆様から脱炭素先行地域づくり事業にご協力頂くには、より早い情報の提供が必要なので龍と子の HP や SNS の更新は早く行うよう、村長より依頼があった。